

A層～D層についてもっと知りたい！

A層～D層の値って何のためにあるの？

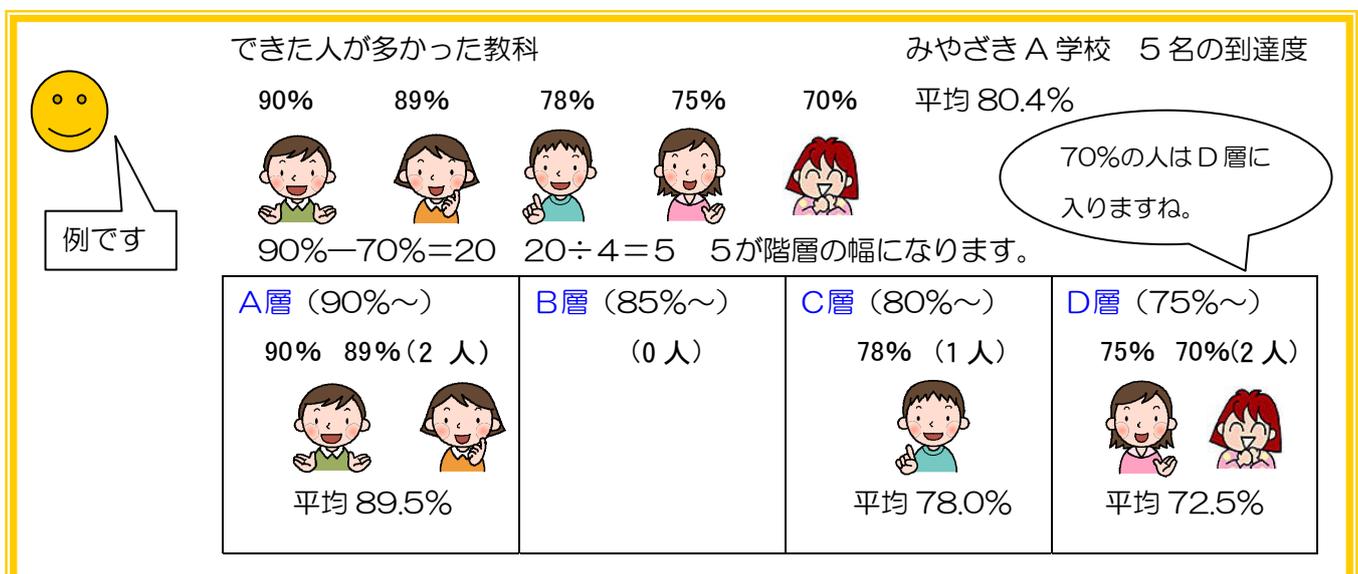
みやざき小中学校学力調査は、教科によって問題の数や内容が違います。また、結果は得点ではなく到達度(できた割合%)で表しています。ですから、結果が出たときに、問題ごとの到達度や個人差の大きい問題はどれかなど、集団や個人で比べるための目印となるよう示しています。

- A～D層の値は、同じ教科や教科どうしにおける定着の違いを比べるための目印になるものです。
- 全教科のA～D層の結果と、意識調査の結果とを比較することで、「このテストができた人はこんな意識をもって生活している傾向がある。」等、学力と意識との関連を見つげるための参考にすることもできます。

A層～D層ってどうやって求めているの？

簡潔に言うと、最も高い到達度と最も低い到達度の差を4等分して、A～Dとしています。

- 教科ごとに個人の到達度を出して、集団ごとに最も高い到達度と最も低い到達度の差を求めます。
- 求めた差を均等に4つに分けて、階層を決めます。最も高い層から順に、ABCD層となります。

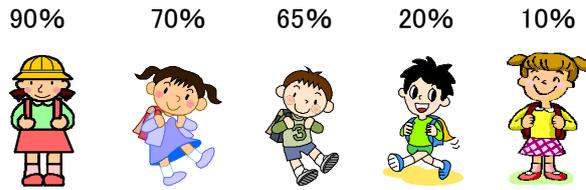


できた人とできなかった人の差が大きかった教科

みやざきB学校 5名の到達度



例です



70%の人はB層に入りますね。

$90\% - 10\% = 80$ $80 \div 4 = 20$ 20が階層の幅になります。

A層 (90%~) 90% (1人) 平均 90.0%	B層 (70%~) 70% 65% (2人) 平均 67.5%	C層 (50%~) (0人)	D層 (30%~) 20% 10% (2人) 平均 15.0%
--	--	--------------------------	--

A層~D層は、集団や教科ごとに、個人の到達度を使ったクラス分けのようなものです。単純に人数で均等に分けたものではありません。

A層~D層の分け方はいくつあるの？

教科ごとと、全教科を合わせた結果で、A層~D層をそれぞれ求めています。つまり、下の表のように、小学校は5通り、中学校は6通りあります。

		A層	B層	C層	D層
小学校	国語				
	社会				
	算数				
	理科				
	4教科				

教科ごとの分け方は、教科ごとの全体概要や設問別通過率で利用されています。

		A層	B層	C層	D層
中学校	国語				
	社会				
	数学				
	理科				
	英語				
	5教科				

全教科の分け方は、意識調査の結果分析で利用されています。

A層～D層の数値でどんなことがわかるの？

全体概要では

全体の平均到達度が、どの層にあるかがわかります。また、各層の中で目標値を達成した人が何%いたのかがわかります。

設問別通過率では

表のA層～D層の下に書かれてある数値で、階層の中で、その問題ができた人が何%いたかがわかります。また、A層とD層の中で、できた人の割合の差がわかります。

児童生徒個人の成績表では

個人の到達度が県全体のA層～D層のどの階層に入っているかが示されています。
(印の意味 A層・・・◎ B層・・・○ C層・・・△ D層・・・▲)

- できた教科（問題）とできなかった教科（問題）がわかります。
- 教科（問題）が、上位層と下位層のどちらが多い傾向かがわかります。
- A～D層の差が大きい教科（問題）は、できた人とできなかった人の差が大きい傾向であることがわかります。
- 意識調査でA～D層の差が大きい質問は、学力テストと意識調査の結果の関連が深いことがわかります。

どんなところを見て分析すればいいの？

- 平均到達度は、A層～D層のどのあたりに位置していますか？
- 平均到達度やA層～D層の値を他の集団のものと比べるとどんなことがいえそうですか？
- A層～D層の達成率についてどんなことがいえそうですか？
- 設問別通過率が低いのはどのような問題ですか？
- A層とD層の差が大きいのはどのような問題ですか？

※ 以上、参考にしてください。

